

1936(昭和11)年～

1. 経歴・狭山市との関わり

入間郡入間川町に慶長年間から15代続く篤農家の長男に生まれる。父・信貞はアララギ派歌人であり、狭山市文化協会会長を務めた。

町立入間川中学校から埼玉県立豊岡実業高校(現・埼玉県立豊岡高校)に進学したが、埼玉県立川越農業高校(現・埼玉県立川越総合高校)へ2年生から編入する。卒業後、青年団活動に参加。家業は養蚕が中心であったが、周辺地域の宅地化や急激な都市化により、酪農家を経て、施設園芸(観葉植物・造園用樹木栽培)に転換する。その後、農業共済組合長として30年、県内一組合を進め、埼玉県農業共済組合連合会会長を務めた。

埼玉県議会議員、狭山市長、衆議院議員、内閣官房副長官を歴任。

旭日重光章受章・狭山市名誉市民・狭山市文化団体連合会顧問



2. 主な業績

1974年より、中央公民館長在職中、急激な人口増加に対応して、住民相互の交流とボランティア活動創出に取り組む。地域の文化や伝統、産業を共に活性化するため様々な講座を開く。狭山市美術家協会や障害者の会、介助グループの会等を創設するなど、市民参加型の事業を展開した。

1979年より、埼玉県議会議員として高校の増設を提言し、県立・私立学校の誘致、新設に関わる。また、県立川越総合高校内に開校100周年記念事業として養蚕資料館を設立した。

1986年、狭山市長に就任。1988年、国民文化祭の茶席を狭山市に誘致し、翌年から市の事業として、「さやま大茶会」を開催した。現在までに35回を重ね、県営稻荷山公園における秋の狭山に欠かせない文化事業となっている。狭山産抹茶「明松」、玉露「伊利麻路」を商品化した。

狭山市立博物館、中央図書館、狭山台図書館、社会福祉会館を開館。また、狭山ケーブルテレビを立ち上げ、狭山市観光協会、狭山市国際交流協会を設立。狭山の魅力を発掘し発信するなど、様々に尽力した。これらはすべて、

現在の狭山市における文化の発信と豊かな文化活動の礎となっている。

2009年より、埼玉県産業教育振興会会長を務め、本県専門高校の充実発展に貢献する。

2018年公開のドキュメンタリー映画「武蔵野」の制作に関わる。

埼玉新聞「埼玉文化賞農林部門」受賞。高麗郡建郡1300年記念事業の会長として活躍中。

著書：『我が心の師・上杉鷹山』『道州制—新制日本の国のかたち』『日本人の使命』『耕不尽』

3. 特筆

心の師は、上杉鷹山と二宮金次郎と語る。「率先垂範と同時に、自分も現地で農民や藩士と同じ苦労を实践する指導者であること」が師と仰ぐ由縁である。インタビューの最後に、「農家に嫁ぎながら、自分が政治家になったことで大変な苦労をかけた」と、夫人への感謝の言葉を語った。

〈インタビュー〉大野松茂氏 〈参考文献〉『耕不尽』